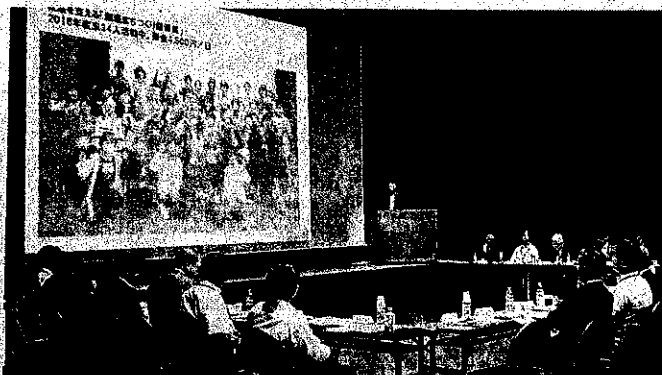


健康増進 市民巻き込み



全国37自治体 豊岡で会合

健康を施策の中心に置いた街づくりを進める自治体「スマートウェルネスシティ(SWC)」の代表らによる会合が30日、豊岡市城崎町の城崎国際アートセンターで始まった。全国37の自治体から市長や町長、担当職員ら計約180人が参加。2日間にわたり、市民の健康増進を進める際の課題について話し合った。

2009年に発足した全国の首長の集まり「スマートウェルネスシティ首長研究会」などの主催。研究会には現在、県内の豊岡、加西、川西の3市を含む35都道府県の計66区市町村が加盟している。全国レベルの会合は年2回開かれており、今回は16回目。

会合では、SWC首長研究会会長の久住時男・新潟県見附市長が「発表される各自治体のアイデアを持ち帰り、今後の施策に生かしていきたい」とあいさつ。この後、開催地を代表して中貝宗治・豊岡市長が市の健康づくり施策について講演した。中貝市長は「健康づくりにはそれほどこ関心の高い人たちが巻き込むには、ソーシャルネットワーク(人のつながり)を強化・活用する必要がある」と強調した。(藤本久裕)

全国37自治体の代表らが集まって健康増進の街づくりについて話し合った。豊岡市城崎町

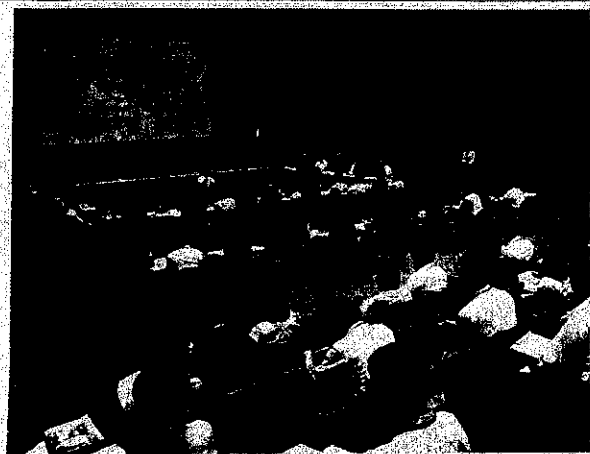
2017.5.31 朝日新聞

地域の健康づくりに期待

「健幸都市」へ意見交換

健康的な暮らしが定まらぬまちづくりを目指す全国自治体が集まった「スマート・ウェルネス・シティ首長研究会」が30日、豊岡市城崎町の城崎国際アートセンターで始まった。ホスト市として中貝宗治市長は「(会合を通じて)各地域の健康づくりが進むことを期待する」と挨拶。31日まで、首長らが意見交換する。

豊岡で首長研究会



全国から集まった首長研究会。「健幸都市」づくりへ向けて意見交換する。豊岡市城崎町

同シティは、高齢化や人口減少が進む中でも、住民が健康で生きがいのある幸(茨城県)の教授が提

唱。これに賛同して平成21年11月に同研究会が発足、現在、全国66区市町村(35都道府県)が加盟している。全国会合は16回目。「健幸都市革命への道筋」を全体テーマに、初日は職員だけの派遣も含めて40近い自治体などから約180人が参加。挨拶の後、中貝市長は「豊岡の挑戦」と題して講演し、歩いたり暮らすまちづくりや女性元氣教室などの健康施策により、1人当たりの医療費が県下で最も低いことを語った。同研究会では健康無関心層への働きかけが課題にあけられており、参加を促すためには「取り組みの中で人や社会とのつながりを意識してもらえることが大切」なども強調した。この後、テーマ別に議論が行われ、川西市や大阪・高石市の市長らが事例報告を行い、意見を交わした。2日目は午前中、官民連携などについて意見を交換し、閉幕後、同市祥雲寺の県立コウノトリの郷公園を視察する。

2017.5.31 産経新聞